

## <連載コラム> 「せいいち性」その由来と行方(第3回)

### 岩手からのレポート

#### (その2)

船橋聖一 (元高校教師)

1954年4月11日 東京生まれ



#### 「当事者意識をもって仕事してください」

昨年4月から公募で岩手県商工労働観光部の産業経済交流課で勤務しているが、私が把握して処理しなければならない仕事をうっかりして、支払ミスにつながりそうになったとき、課長(部下6人)がこう言った。なぜそういうことになったのかを聴き、その上で対応の仕方を具体的に指摘するのなら受け止めることもできるだろう。上司のこのことばは私の人格をいくらか傷つけたと感じた。

私の隣にいる係長に私の訴えを聞く場をつくってくれるように頼んだ。彼は課長と相談すると言うので「いや、あなたにその場をもうけてもらいたいのです」と丁寧に説明した。その後課長と係長は長い時間私への対応について相談していたらしい。その相談を、私と昼休みにキャッチボールをするようになった若いSさんが残業しているときに聞いたそうだ。Sさんは何のことだろうといぶかしく思っていたという。後日私がそのなぞを酒を飲みながら解いてあげた。話せることで枯渇しかかった気持ちに水をもらった。

さて、数日後3人の話し合いがあった。私は、①そのことばは必要だったのですか②私がどうしてパワハラと感じたか想像できますか③この話し合いの後にそのことばを撤回することを望みますと話した。

課長は長い時間をかけて資料も用意して自分が正しいことを説明した。また、「あなたには一番楽な仕事を割り振っているんです」とも言った。その姿勢がパワハラをよぶのに何もわかっていない

んだなと思ったが何も言わなかった。最後に彼は「遺憾です」と言った。

#### 今日は自転車ですか

12月15日、雪が降った翌日、とても自転車には乗れないので歩いて県庁へ向かった。公舎に住む県職員が通らない裏道を歩いて行く。山王小学校(全校生徒144人)の校門で毎日立って子どもたちに声をかけ、雪の日には通学路を除雪しているおじさんがいる。親しみを感じてあいさつを交わすようになった。それは少しの喜びだ。

さて、その日の帰り際にコピー機のところで総括課長(産業経済交流課部下25人)のHさん(53)が話しかけてきた。「今日は自転車ですか」「今日は無理でしたね」「では、前にお話しした酒蔵で立ち飲みはいかがですか」「はい、ありがとうございます」。17時15分に勤務が終わると私と彼だけが支度をして部屋を出た。他の職員は誰も動かない。『菊の司』という酒蔵の一部が立ち飲みスペースになっていて、20種類ぐらいの酒が味わえる。一杯60mlで200円から500円。自己紹介や世間話をしてふたりで歩いて帰った。彼の家は私の裏道通勤路の途中だった。私は誘われたことが嬉しくて、尊敬できる年下の校長のことばを思い出して彼にお礼の代わりに伝えた。「校長さん、生徒たちによく話しかけていますね」「ええ、声をかけることは存在を認めるということですから」と。

2月9日(火)、今度は私が今日は立ち飲みいかがですかと誘った。そのとき、彼はある職場にいたとき毎年ひとりずつ来なくなった(休職してい

く)と語ってくれた。

3月5日(金)の夕方、彼がちょっとした用事をもって私の机に来て、「来週の月か火はどちらですか」と言う。「最後の立ち飲みにいきましょう」と私は言った。「いいえ、ゆっくりやりましょう」。こうして、先に書いた若いSさん(24)、JALから2年間の予定で出向しているセールスディレクター(SD)のSさん(46)、フランス西部コルマルでの岩手県産品の販路開拓をしているKさん(40)が「船橋さんを囲む会」を開いてくれた。

## 水をもらい水を注ぐ

私の仕事のひとつは産業創造アドバイザー(A D)を事業者につないで、アドバイザーと同行して事業者を訪問することだった。事業者の販路開拓、商品開発、パッケージデザインなどのニーズに対応するため。

3月17日、公用車でA Dを迎えに行き、陸前高田の道の駅「高田松原」にある「たかたのごはん」に行った。ここは2019年9月に開館した施設で、津波伝承館が併設されている(無料)。機会があれば是非訪れてほしい。この「たかたのごはん」という食堂のメニューと味付けの相談だった。スタッフに対するマネージメントの相談も含まれていた。

3月24日は久慈にある焼き肉屋「福治郎」の新商品の開発とパッケージデザインの相談だった。デザインに詳しい女性のA Dと食品加工とその法律に詳しい工業技術センター(独立行政法人)の食品技術部長との3人で出張した。車中、私は「今、事務引継書を4冊書いていますが、一番支援を必要としていて、研修を必要としているのは県職員だということを書こうとしているんです」と言う。「いい引継書になりそうですね」と笑った。

「福治郎」では経営者が豚モツ鍋(醤油味)と牛モツ鍋(味噌味)を用意して待っていた。久慈には短角牛という特産の牛があるが、このモツは

脂が少なく煮ると硬いので商品化が難しいのだという。だから利用されないのが価格が安い。A Dと食品技術部長はアイデアを出し、私は甘い鍋を楽しんだ。

翌25日は私の最後の勤務日だ。「福治郎」出張の復命書を写真付きで丁寧に仕上げた。私がこの1年間につくったファイルは約10冊でそれぞれが分厚い。私の仕事を引き継ぐ人は事務引継書とこのファイルとPCに記録されたファイルのデータを見ながら仕事をするようになる。6人の食産業担当のうち私を含め4人が異動となった。課長は1年で異動だった。

27、28日と6畳2間の公舎を片付けて29日公舎を後にした。私のおそらく最後の引っ越しが終わった。1年間に車で10往復はしただろう。新幹線でも10往復はしただろう。

総括課長のHさんをはじめ幾人かの人たちから水をもらわなかったら続けられなかったかもしれない。岩手山登山の時出会った杉本知明さん(58)との交流がなかったら続けられなかったかもしれない。県庁12階に県職労の事務所があるが、そこで話を聞いてくれる書記の中軽米悦美さんがいなかったら、〇〇が、□□が・・・。

水をもらい水を注ぐ。水を注ぎ水をもらう。

